

インターネットにおけるチェーンメールの社会的影響

献血呼びかけメールの事例研究

大中 浩行¹

横浜市立大学大学院国際文化研究科

2000年5月から7月にかけて発生した、rh-AB型血液患者の手術に対して献血による協力を呼びかけるメールが転送される現象を事例に、インターネットにおけるチェーンメールの社会的影響について調査を行った。Web上のBBS(掲示板)に転載されたメールを収集し、内容を分析することによって、伝播過程の分析を行った。今回の事例は「善意のチェーンメール」として社会問題化したことが、短期間に多数に情報を伝達する行動は、善意・悪意を問わず社会問題化するリスクを孕んでおり、転送者の社会的地位なども考慮にいたれた研究が課題となっている。

Social influence of chain letters in the Internet

Case study of letters calling for blood donation.

Onaka Hiroyuki

Graduate School of International Cultural Studies, Yokohama City University
This paper is case study on social influence of chain letters calling for blood donation. A lot of Japanese Internet users joined forwarding this chain letters from May 2000 to July. This study appears process of forwarding chain letters through collecting chain letters contributed to Bulletin Board System(BBS) in World Wide Web(WWW). This case had become social problem regarded as "No harm chain letters", but communicating to large members and short term is high risk action. It is important to research on Information transmitting considering social position of players.

1. はじめに

本発表は、メールが鼠算式に転送されるいわゆる「チェーンメール」現象について、2000年5月から7月にかけて発生した、rh-AB型血液²患者の手術への献血を呼びかけるメールを事例にして行った調査の報告である。

遠藤(2000)はチェーンメールに限らずネットワークへの侵入、スパム、ネズミ講などを「ネットプレイス(に対する)攻撃的な言動」と総称し、その動機によって、1)サイバープレイス(ネットワーク)あるいは社会一般への悪意、2)ネットワーク参加に対する期待の裏切り、3)特定の人物との間に生じた問題 4)当人の無意識に行った行動が他者から「反ネットプレイス的」と受け取られた、5)「いたずら心」が問題を引き起こした、6)ちょっとしたミスが大問題を引き起こしたという6つに分類している。

チェーンメールにおいても、特定の社会集団への悪意(いわゆる「デマウイルス情報」)、いたずら心からうまれるもの(「幸福のメール」)、内容の面白さゆえにネットワーク上に広まっていくもの(人気アニメの架空の最終回)、人道的協力を呼びかけるものなどが存在する。人道的協力を呼びかけるものは一般には「善意のチェーンメール」とよば

れ、1996年にrhマイナスの献血呼びかけがチェーンメール化した事例(川浦,1998)や1997年の日本海の重油流出事故において、地場産業への支援呼びかけがチェーンメール化した事例などが報告されている。

動機の善意、悪意にかかわらず、チェーンメールの転送は 1)機器(コンピュータ)や回線の資源を消費する、2)システムやコミュニティの管理人に対応を強いる、3)関係する個人、機関への問い合わせを発生させ、その対応を強いる。このことが、コンピュータのみならず人間も含めた広義のネットワークに過度な負荷をかける、という問題意識はインターネット(the Internet)の黎明期から存在し、その問題意識はRFC1855(ネチケットガイドライン)の「電子メールでは、絶対にチェーン・レターを送ってはいけません。…[チェーン・レターとは、幸福の手紙(不幸の手紙)のように別の人に同じ内容を転送することを要請する内容の手紙です。理由の如何を問わず禁止されています。]」などに現れている。

ただし、このようなガイドラインが存在すること事態チェーンメールを根絶することが不可能なことのあらわれであり、先述した「ネットワークに負荷をかける」という表現の意味も理由もチェーンメールの種類によって多様である。

ところで、チェーンメールを広義のネットワーク上の情報伝播過程として捉えた場合、その全体

¹ r005004g@yokohama-cu.ac.jp

² (人種としての)日本人の2000人中1人

像の把握には大きな困難が伴う。うわさ・流言・都市伝説などの情報伝播においては、影響範囲の特定が困難なことから、柴内(1999)が指摘するように、標準的なサンプリング調査の網をかけることに困難がある。

電子メディアを介した情報伝播への先行研究については、米インテル社のCPUの欠陥(ペンティアム・バグ騒動)の情報伝播について追跡した柴内・池田(1997)、人気アニメの架空の最終回がチェーンメール化したものをとりあげた立命館大学産業社会学部稲葉ゼミ project“Dora”(1999)が存在し、前者は会議室上での発言者への質問紙調査であり、後者は大学の一学部の学生を対象とした調査である。

今回対象とするチェーンメールは、2000年5月17日から同年7月上旬にかけて流布したものであり、内容は「日本医科大学多摩永山病院に入院した妊婦の手術に際し、rh-AB型の血液が不足しているので献血への協力者探しと献血への協力をお願いする」ものである(表1・以下「献血メール」)。

チェーンメールの伝播する経路としては電子メールをはじめとして Web ページ、電子掲示板(BBS)、ニュースグループなど様々な伝播経路が存在する。本発表ではBBSの発言記録を収集し、比較分析することによって、チェーンメールの実態を検証する。

2. 方法

分析対象は、全文検索型サーチエンジン(Infoseek³、フレッシュアイ⁴、goo⁵、ODIN⁶、google⁷)で「日医大永山病院」をキーワードとして検索し、表示された Web 上のファイルである。「献血メール」そのものの発言と、BBSにおいて「献血メール」に関連して発言が記載されているファイルを保存し、分析した。その中で献血メールの中の日付(表1の①)、発信者(表1の②)、患者呼称(表1の③)、必要な血液量(表1の④)、連絡先(表1の⑤)、その他特徴的な発言を記録し、分類した。また、「献血メール」の関係機関である日医大永山病院とカテナの対応と献血メールの伝播過程を比較する。

³ <http://www.infoseek.co.jp/>

⁴ <http://www.fresheye.com/>

⁵ <http://www.goo.ne.jp/>

⁶ <http://odin.ingrid.org/>

⁷ <http://www.google.com/>

件名]rh-AB型の血液募集 [発言者]大中

2000年5月19日(金)21:39

② (発信者)

① (日付)

大中です。友人からこんなメールがきたので転送します。

〔内容〕

カテナ社員の奥さんが妊娠されておりますが、先日入院されました ③ (患者呼称)

病名は、【全前置胎盤】です。(全前置胎盤…胎盤が逆になって子宮口を覆っている為、出産時は帝王切開で胎児を取出し、胎盤を除去する)

出産予定は、8月初旬でありましたが、この為、7月初旬(第一週位)に帝王切開し胎児の取り出し及び、胎盤の除去を行います。帝王切開の際、輸血が必要ですが、上記血液型の為、病院でも、輸血用血液が全然足りなくまた、集まるか否かが問題になっております。

〔手術実施時期〕

7月上旬(第一週位)…胎児が生まれて肺呼吸が出来るのがギリギリ3、4週である為。

また、母体の状況によって、これ以前になる可能性あり。

〔必要血液量〕④ (血液量)

約1~10リットル。手術の状況により変化。多ければ多いに越したことは無い。

〔病院での確保〕1.8リットル

「内訳」 = @関東中の血液センターより掻き集め確保。1.2リットル

3週間前より本人より備蓄用に採血。輸血用血液保存期間: 3週

〔協力してくださる方〕

1. 平日(月・火・水 17:00頃迄)

日医大永山病院にて医師の説明を受けた後血液検査(トータル約12時間)

2. 6月中旬より採血開始1回 200CC

最大毎週3回で600CC(採血時間約10分)

3. 手術日 病院にて待機して頂きたい

1人分の採血量が200CC/回であることで分かるように、絶対的人数が不足しております。

この件は、絶対自分で止めず、必ず、周りの友達、家族、親戚、会社関係の人に伝え、情報を収集してくださいようご協力お願いいたします。

また、協力して頂ける方は、出来れば、3回採血して頂きたいですが1回の採血でも、当日待機でも、構わないので、協力してください。

連絡ください。

宜しく御願います。

以上、よろしく願います。 ⑤ (連絡先)

***情報サービス アウトソーシング事業部 第1サービス部

*** **

〒

TEL:*****(内線:*****)

E-mail:*****@mmsku.abk***.co.jp

FAX:*****(内線:*****)

(下線は引用者付与・個人情報是一部伏せ字)

表1 献血チェーンメールの内容

3. 結果

計119件の発言を記録した。内訳は、BBS71件、

メールマガジンのバックナンバー4件、Web ページでの呼びかけ28件、献血メールを題材として書かれている Web ページ11件であった。このうち、Web ページを中心として発言日時が特定できない28件を除外した91件を分析対象とした。

系列	主たる 連絡先	患者呼称	血液量	件 数
α	A	「教会員の知人 方の奥さん」	110リット ル	3
		「知人方の奥さ ん」	1～10 リ ットル	12
			110リット ル	2
β	B	「私たちの仲間 であるXX(マ)君 の奥さん」	1～10 リットル	12
θ	C	「カテナ(私の友 人の会社です) 社員の奥さん」	1～10 リットル	18
	D	「カテナ社員 の奥さん」		3
	E			2
				110リット ル
その他				22

表2 発言の分類(下線部の部分)

連絡先・患者呼称・血液量による分類を表2に示した。連絡先となっている発信者はAからEまで5名存在し、表1で下線部を引いた部分以外は文面はほぼ同一である。上位に一次の発信者が存在し、彼らは患者呼称などの部分を書き換えて転送していて、性格としては媒介者に近いことがわかる。彼らを以後「二次発信者」と総称する。

また、患者呼称を手がかりに、大きく三つの分類に分けることができる。たとえば「知人方の奥さん」という表現は「教会員の知人方の奥さん」という表現から「教会員」が削除されたか、「教会員」が加わったかのいずれかである。同様に、「カテナ(私の友人の会社です)社員の奥さん」も「カテナ社員の奥さん」に「(私の友人の会社です)」が加わったか削られたかである。以下、この点から献血メールを $\alpha \sim \theta$ の三つの系列に分類する。

献血メールの文面からは、一次発信者は連絡先として全くでてこない。この献血メールの特徴は発信者への「rh-AB の血液が見つかった」というフィ

ードバックが必要とされている点であり、誰に連絡するかが重大な情報となる。つまり二次発信者は一次発信者のメッセージを、「(メールの転送先からの)フィードバックを中継する連絡先」の役割を期待されていると受け止めたのに対し、二次発信者より後では「献血メールを転送する」という役割を発揮したため、献血メールの舞台が媒介者を通じて他の社会集団に移行した後も文中に二次発信者が連絡先として残り続けたと考えられる。

血液量「110リットル」という表現は、「1～10リットル」の「～」が欠落して転送されたものであり、5月31日以降にあらわれるようになる。

連絡先・患者呼称・血液量などから分類ができないものがその他の22通である。これは意図的な情報編集の結果としてあらわれるものであり、連絡先を書き換えたのであれば、二次発信者にかわってフィードバックの中継点を勤めるという、上位発信者の期待に適った行動をとっていることになり、患者の呼称が「私の知り合いの知り合いの知り合いで、直接的には私は知らない方なのですが」という表現のものなら、発信者との関係を正確に表現しようとしていることになる。佐藤(1996)は車の当たり屋情報が記されたビラが伝播する中で、自覚的な書きなおしによって情報の変容が起きていることを示したが、献血メールでも同じ現象がおきている。

掲示坂に掲載された日時で分類したものが表3である。

この表では5月20日から始まっているが、一次発信者の呼びかけが5月17日であったこと(表4の中のXの発言)、日医大永山病院の発表では病院に問い合わせの電話が来はじめたのが5月19日であったことをあわせると、BBSの発言はメールを中心にして伝播してきたものがWebに後追いで現れてきている傾向が現れている。また、 $\alpha \cdot \beta$ 系列に関しては5月24日以降一次発信者Xより「血液の確保ができた」という、転送中止を呼びかけるメールが伝播経路を後から追いかけて流れており、 β 系列ではその効果が現れている。ただし、 α 系列に関してはAのメールを受信した個人ホームページ運営者Yがさらに多数に転送したことも加わって、6月下旬まで転送が続く結果となった。

20	θ	
21		
22		
23	αβθ○○○○	
24	ββθ○○	
25	βθθθ○	
26	ααβ○	
27	αβθ	
28	βθθθ○○○○	
29	θ	
30	ααθθ	
31	αααθ○	
6/1	ααβ○	
2	αββθθθ	
3		
4		
5	ββθ	
6	θ○	
7	θ○	
8	α○	
9		
10		
11	α	
12		
13	αθ	
14	θθθ	
15	○	
16		
17	θ	
18		
19	θ○	
20	θθ	
21		
22		
23		
24	α	
25	θ	
26	θθ	
27	αθθ○	
28	θ	
29	θ	
30	θθ	
31		
7/1		α…α系列
2	○	β…β系列
3	θ	θ…θ系列
4		
5	θθθθ	○…その他

表3 時系列による分類

θ系列の特徴は6月17日以降にまとまった数が現れていることであるが、これらは表2で発信者が「カテナ社員の奥さん」、血液量が「110 リットル」となっている分類である。この分類には「数千人に一人と言われる AB 型 Rh(-)の血液の提供のお願いです。」という独自の内容が付加されており、E が発信した献血メールを受け取った何者か(以下 Z)がこの文面を付け加えて転送し、これが献血メールを再加速させる役割を果たしたと考えられる。

日医大永山病院病棟の発表によれば、5 月 19 日頃から献血メールに関しての問い合わせが病棟へ集まりはじめ病棟業務に支障を来すような

“「AB型RH-」の血液を探しています”

のメールを出させていただきましたBです。

皆様のお強力のおかげで、Xさんより奥さんの手術に十分と思われる量の確保が出来そうとの旨、連絡がありました。つきましては、ご協力を頂いておりました“「AB型RH-」の血液の情報提供依頼”は終了いたします。

皆様の善意とご協力に深く感謝いたします。

また、ご迷惑をおかけした方々には誠に申し訳なく存じます。

以下に依頼者の X さんのメールを添付します。

B

-----Original Message-----

From: X

Sent: Wednesday, May 24, 2000 3:42 AM

To: Undisclosed-Recipient;;;;;

Subject: 「AB型RH-」見つかりました。

多数のご協力に感謝しております。Xです。

「AB型RH-」探し御協力して下さった皆様へ

5月17日に『「AB型RH-」の血液を探しています』を送信して以来、多数の方々から有効な情報や紹介があり、誠にありがとうございました。

短期間でありながら、協力して頂ける方6名と約束ができ、その他多数の紹介者に連絡をとっているところです。

また、血液センターからも2L確保出来そうです。

血液は、多ければ多いに越したことは無いのですが、協力していただける方への医師からの説明、準備等でこれ以上の情報に対する確認時間が無い状況になります、また、私自身、情報提供の多さに対応しきれないこともある為、まことに勝手ではございますが、情報収集を終了させていただきます、ご了承ください。

友達、家族、親戚、会社関係の人に伝え、情報を収集して頂いたかたには、誠に申し訳ありませんが、依頼した方々へお礼と共に情報収集の終了連絡をお願い致します。

多くの皆様からの好意に感謝し、メールで申し訳ありませんがお礼の挨拶に替えさせていただきます。

*** 引用以上 ***

表4 一次発信者 X と二次発信者 B のコメント

(<http://www.gem.hi-ho.ne.jp/fukuchuu/bbs/list2.shtml>より、個人名は置き換え)

った。5 月 24 日に大学のホームページを通じて、事実関係の公表を行ったが、その文面は表5の通りであり、「ご協力をお願いしていることは事実」というものであった。この情報は、「血液はまだ必要とされている」という点でいえば、一次発信者 X が 5 月 24 日に発信した「情報収集を終了させていただきます」という情報(表 4)や、カテナ株式会社が 5 月 24 日前後ホームページに掲載した「5/24 現在必要血液量を確保できる見込みとの話を聞いております」とは食い違うものであり、相反する情報が到達したため混乱が生じた掲示板も存在した。その後、日本医大が「チェーンメールの再配布はお止め下さい」と発表したのは 6 月 3

AB 型 Rh(-)の方への供血献血依頼のメールについて

5月19日(金)頃より「当大学において AB 型 Rh(-)の方に供血をお願いする」旨のメールがチェーンメール化されて広まっており、大学本部・病院に対し、全国から様々な形で問い合わせが相当数寄せられおり診療に支障が出てきています。このため大学としても事実関係を明らかにする必要があると考へ、あえて大学のホームページにこの件に関するコーナーを設けました。

まず明らかにしなければならないのは、現在広がっているメールの発信者は大学・病院ではなく、おそらく非公式の私情が非常に早い速度で広がったと考えられるということです。従ってメールの内容そのものについては大学・病院側としては一切の責任を負うことはできません。しかしながら、現在、治療上の必要性から日本赤十字社や、AB型 Rh(-)の方に対して供血のご協力をお願いしていることは事実であります。

5・6 月中に東京・神奈川もしくは近県の方でご協力をいただける方であれば AB 型 Rh(-)のかたご本人から直接、病院担当医まで早めにご連絡いただければ大変幸いです。ただし、ボランティアであること(交通費等の金銭的報酬はありません)また、ご協力いただく場合には当病院にて初回に供血の可否についての諸検査(血液型の確認、貧血の有無等のチェック)を受けていただき、その上で改めて後日、供血をお願いすることになりますので、ご承知くださるようお願いいたします。

連絡先

日本医科大学多摩永山病院 産婦人科

042-***-****, FAX042-***-****

担当医 谷*、大*

日時 月・火・水曜日 午前9時～午後3時(時間外は対応しかねますのでご了承ください。)

なお診療の都合上、改めてお電話をいただようお願いする場合がありますことをご了承ください。

表5 日本医科大学のホームページでの告知

(<http://www.bekkoame.ne.jp/~y.kawakami/Rh-.htm>
より)

以上から推測される献血メールの伝播過程は次の通りである。(図 1)

- ・5/17 に「患者の家族」あるいは「患者の家族の友人」(毎日新聞)X が送信した。
- ・X のメールを受け取ったうち二次発信者 (A、B、D もしくは E) が転送した。
- ・Y が A 分類のメールを、Z が C 分類のメールの転送を再拡大させる役割を果たした。

「AB 型 RH-の献血のお願い」メールの件で弊社にお問い合わせを頂いております。弊社社員から友人宛ての私信メールが途中で出所・連絡先不明となったまま多くの方々に転送されているようです。多くの皆様と善意と協力を集める一方で、出所・連絡先不明のメールというところで不安をいだ

かれた方々もいらっしゃる、弊社名の記載があることからお問い合わせを頂きました。皆様のご協力を頂き、5/24現在必要血液量を確保できる見込みとの話を聞いております。ここで、不安を抱かれた方々には弊社社員がきっかけとなったという点でお詫び申し上げますと共に、善意をお寄せ頂きました多くの皆様には心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

表 6 カテナのホームページでの告知

(<http://www.fan.hi->

ho.ne.jp/kisses/bbs/cyberlog/ck200005.html より)

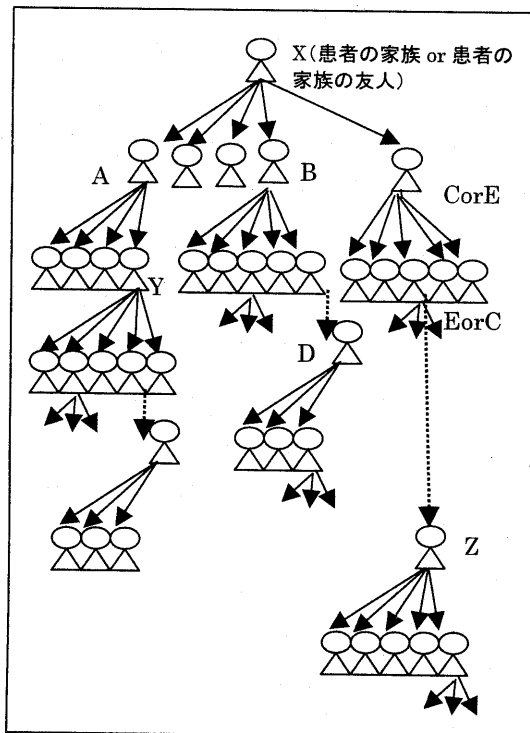


図1 献血メールの伝播イメージ

6. 考察

日本医科大学は6月5日に、「約40名の方々から献血の申し出をいただいた」と発表している。「rh-AB型の血液所持者1名を見つけるには2000名への呼びかけが必要」だとするなら、6月5日段階で8000名以上のもとへ献血メールは伝播していたことになる。

いわゆる「善意のチェーンメール」の場合、「善意であればチェーンメールにしてもいいのか」という点がしばしば議論になる。電子メールに頼った情報収集はいわゆる「情報の一人歩き」を招くので、マスメディアや Web ページも併用して呼びかけるのがよい、という提案も存在する。

「情報の一人歩き」とは何であるかを考えたとき、それは「情報の事実判断に多大なコストを要する状況」であるといえる。献血メールの例で考えるなら、まだ血液を必要としているかを正確に把握するには、メールが転送される度に一次発信者または関係機関に問い合わせをしなければならない。それは発信者側に過大な負荷を招くだろう。Web に正確な情報を記載したとしても、情報を発信する側がチェーンメールの終息を判断するには困難を伴う。また、携帯端末などの情報量の制限や自覚的な情報の書き直しによって、正確な情報へのポイントが削除されてから伝達するリスクも含めなければならない。

「善意のメール」という表現もしばし耳にする。今回の献血メールの場合、「献血への協力者を求める」という意志およびそれに協力することは社会通念としては「善意」と表現されるだろう。

しかし、伝達過程に加わる人が全ていわゆる「善意」で中継に加わるという点には不確実性が存在する。表7は6月1日に送信されたと報告されたものであり⁸、最終行の電話番号は二次発信者Aの連絡先である。このようなメールを転送すること、またこのような内容に変質する可能性があるメールを転送することを「善意」と呼ぶかは、意見が分かれるところであろう。

車に轢かれて産気づいた人がRH-の血が必要なんです。
といっても あんた馬鹿みたいだから
わかんないでしょう？
とにかく そんなアンタに出来ることは このメールを
回すこと。あんたのメルトモとかにまわしなさい。
そうしないと あんたは人殺しだよ！ 協力しなさい！
0745-**-****に電話しなさい。

表7 献血メールの特異例

(<http://www.linkclub.or.jp/~konomi/sample/sample004/0787.htm>より)

佐藤(1996)は車の当たり屋情報の伝播研究を通じて、特定の集団を「悪者集団」と名指しすることが何らかの排除心と結びつきやすいことを指摘している。この点でいえば、「rh-AB 型の血液の人を捜しています」という情報は rh-AB 型の血液所有者にとって献血への要請として作用する。Rh-AB の血液の所有者に「献血する」という強制力が働いてなおかつそれに従えない(=献血に行けない)理由が存在した場合、社会集団の中で排除心が生じる可能性はないだろうか。あえて述べるなら、「迅速に」「多数に」情報を伝達するという行動は、

インターネットを使用するにしても、マスメディアを使用するにしても、高いリスクを有しており、それを「善意」「悪意」という相対的な概念で論じることには限界があるのではないか。

チェーンメールの問題点を理解している個人にとっては、チェーンメールに関わりを持つことによる不利益の可能性(不確実性)を減少させるためには、チェーンメールに対し、協力も注意もせずに、何の行動も起こさない(無視)ことが合理的な行動となる場合がある。無視することが合理的な行動となるなら、個人の合理的な行動が社会的に非合理的な状況を生み出す社会的ジレンマが生まれる可能性を孕んでいる。

また、本調査を始める前の段階では医師・弁護士など、医療関係者や社会的地位を有するものが転送に加わることで、チェーンメールへの裏付けの役割を果たした可能性が、チェーンメールをテーマとしたホームページ運営者⁹より指摘されていたが、今回はその点を検証することは出来なかった。社会的地位と情報伝播との関係の調査と、調査法の検討が今後の課題として挙げられる。

文献

ネチケットガイドライン(RFC1855)

<http://www.stanton.dtcc.edu/stanton/cs/rfc1855.html>

日本語訳

<http://www.cgh.ed.jp/netiquette/rfc1855j.html>

遠藤薫 2000 電子社会論:電子的想像力のリアリティと社会変容 実教出版

立命館大学産業社会学部稲葉ゼミ project“Dora”(編)

1999 都市伝説‘98～「ドラえもん」の最終回(仮)」その伝播過程を検証する～

川上善郎 1997 うわさが走る:情報伝播の社会心理サイエンス社

川浦康至 1998 つかう:ネットワーク・コミュニケーションにおけるルールの形成 教育心理学フォーラム・レポート:拡大するリテラシー 日本教育心理学会 14-18

佐藤達哉 1996 1996 年春・福島での当たり屋情報-流言?都市伝説?その探索的研究- 福島大学地域研究 8(1) 2485-2497

柴内康文・池田謙一 1997 現実へと解放されたネットワーク 池田謙一(編)ネットワーク・コミュニティ 東京大学出版会 156-171

柴内康文 1999 電子メディア社会における情報伝播 CMCC 研究会第2回シンポジウム論文集

[online]<http://maple.doshisha.ac.jp/paper/cmcc1999-2.pdf>

⁸ 二次情報であるため、本発表の集計には加えていない

⁹ 「インターネットのゴミ箱」

<http://www1.linkclub.or.jp/~konomi/trash.html>